

柿園管理情報 第2号

令和7年4月28日
城端果樹協会
砺波農林振興センター

1 防除について

柿の生育は前年より1日程度遅く、平年より1日程度早まっています。展葉期はハマキムシ類やカキクダザミウマの防除適期です。

以下を参考に防除を行ってください。

散布時期	対象病害虫	散布薬剤	使用倍率	10a当り 散布量	100リットル 当り薬量
5月10日頃 (展葉期)	ハマキムシ類 カキクダザミウマ	アタブロンSC	4,000倍	350 ^{リットル}	25ml
開花直前 (5月22日頃)	落葉病 炭そ病	トレノックスフロアブル	500倍	350 ^{リットル}	200ml

<注意事項>

- ①カイガラムシ類多発園では4月下旬にアプロード水和剤（1,000倍、開花期まで、年2回以内）を散布してください。
- ②アザミウマ類多発園ではアタブロンSCに替え、アクタラ顆粒水溶剤（2,000倍、年3回以内）を散布してください。
- ③畦畔柿では、アタブロンSC、トレノックスフロアブルが使用できないので、トップジンM水和剤（1,000倍、年6回以内）を使用してください。
- ④散布に当たっては、希釈倍数や対象病害虫など、必ず最新の農薬内容を確認してください。
- ⑤農薬散布時は、周囲の他作物や住宅等への飛散防止に努めてください。特に通学路に面した園地では、登下校時の時間帯等に十分注意してください。
- ⑥本年も着果の安定、空洞果の防止を図るため、養蜂協会よりミツバチの巣箱を借り受け、産地内に設置します。ミツバチに対して害の無いよう、ミツバチの巣箱設置期間中においては、殺虫剤の散布を行わないでください。

巣箱の設置期間は後日、案内します。

2 平核無・刀根早生の摘蕾について

2L以上の果実にするために、平核無・刀根早生は摘蕾を行い、果実肥大を促進しましょう。

開花が始まると軸が硬くなり作業がしにくくなるので、以下を参考に摘蕾を早めに行ってください。

- ①摘蕾時期は、軸の軟らかい開花前までに行う。
- ②残す蕾は、1新梢のうち、1蕾とする。
- ③新梢中ほどの大きくて形の良い蕾を残す。

問い合わせ先：富山県砺波農林振興センター 園芸振興班 徳満 TEL32-8112